

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進めるほか、学会、研究会等での発表・報告、講演等を行うことによって、研究成果の社会への還元を行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する助成金であるが、その管理はその所属機関に任せられている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、直接経費の30%が間接経費として所属機関に措置される。

令和5年度の科学研究費は、継続課題として科学研究費補助金によるものが4件、学術研究助成基金助成金によるものが10件、新規に採択された課題は学術研究助成基金助成金による課題が1件であった。

(1) 継続研究課題

〈補助金〉

基盤研究 (A)

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800 千円 (研究期間直接経費合計額)

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

基盤研究 (B)

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について—調査と対策—」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800 千円 (研究期間直接経費合計額)

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の产地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700 千円 (研究期間直接経費合計額)

〈基金〉

基盤研究 (C)

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究—髪型と装身具を中心にして—」

令和2年度～令和5年度 木沢直子 3,300 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「天然素材から合成素材へ—現代歴史資料の保存に関する研究」

令和2年度～令和5年度 金山正子 2,800 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和6年度 三宅徹誠 1,900 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「武器・武具の祭祀利用の受容と展開」

令和 3 年度～令和 5 年度 塚本敏夫 3,300 千円 (研究期間直接経費合計額)

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるか-大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探る-」

令和 4 年度～令和 6 年度 大橋有佳 3,000 千円 (研究期間直接経費合計額)

「図化困難資料の活用を目指した 3D データ取得・編集・出力に関する研究」

令和 4 年度～令和 6 年度 初村武寛 3,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究－工学的解析を用いて－」

令和 4 年度～令和 7 年度 桃井宏和 3,200 千円 (研究期間直接経費合計額)

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和 5 年度 服部光真 1,900 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、延長)

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和 5 年度 坂本 俊 2,900 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、再延長)

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和 2 年度～令和 6 年度 金澤 馨 3,100 千円 (研究期間直接経費合計額)

(進捗状況遅れの為、再延長)

(2) 新規研究課題

〈基金〉

基盤研究 (C)

「袋中良定開創寺院の総合調査による所蔵資料の研究資源化」

令和 5 年度～令和 7 年度 植村拓哉 2,300 千円 (研究期間直接経費合計額)

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文科学担当

総本山長谷寺（桜井市）	総本山長谷寺文化財等保存調査整理
長岳寺（天理市）	釜口山長岳寺文化財総合調査および寺史編纂
大本山室生寺（宇陀市）	大本山室生寺古文書・聖教調査整理
愛媛県	札所寺院の史跡指定に係る文化財詳細調査

昭和61年から開始され令和5年度で38年目となる総本山長谷寺文化財等保存調査事業を実施した。長岳寺における文化財総合調査および寺史編纂事業についても今年度より3カ年度計画で着手した。令和4年度から着手している大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業も継続して実施した。

世界文化遺産登録推進のための四国遍路札所寺院の文化財詳細調査業務については、令和5年度も愛媛県等で継続して行なった。

考古学担当

【発掘調査】

奈良市	平城京跡（左京二条五坊北郊）発掘調査整理報告書作成業務
滋賀県守山市	横江遺跡発掘調査技術職員支援業務
和歌山市	津秦遺跡第19次発掘調査技術職員等支援業務

【整理報告】

奈良市	平城京左京五条五坊十一・十四坪発掘調査整理報告業務
奈良市	平城京右京北辺三坊五・六坪発掘調査整理報告業務
生駒市	北田原城跡の発掘調査に関する業務
滋賀県野洲市	市三宅東遺跡発掘調査整理報告業務

【石造品調査】

泉涌寺（京都市）	泉涌寺開山堂及び開山塔学術調査業務
高野町教育委員会	史跡金剛峯寺旧境内（奥院地区）大名墓総合調査業務に係る委託業務
大阪大谷大学	伊勢市慶光院墓地・今北山墓地石塔群図面整理業務

発掘調査業務は3件あり、そのうち2件は支援業務である。奈良市内の発掘調査は平城京内を対象とするもので、奈良時代の遺構遺物を確認するとともに、埋没古墳も検出されるなどの成果があり、令和6年4月末まで調査を行った。2件の発掘調査支援業務については、（公財）滋賀県文化財保護協会、（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団での発掘支援業務で、令和6年度も継続して行われる。

整理報告業務では、令和4年度に受託した4遺跡の発掘調査を対象として、報告書の執筆・編集を行い、令和5年3月に奈良市内の発掘調査報告書2冊を刊行した。生駒市と野洲市の発掘調査の整理報告業務については、報告書の執筆・編集を行った。

石造物関係の調査は3件受託した。泉涌寺は令和8年までの継続事業であり、1年目は開山堂に所在する石塔の実測図作成を行った。金剛峯寺大名墓総合調査業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために令和元年度に刊行した悉皆調査報告書に続き、銘文編を含めた悉皆調査報告書の作成を行った。

保存科学研究室

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策等を提案している。

近つ飛鳥博物館（大阪府） 重要文化財大阪府三ツ塚古墳出土大修羅の保存状態調査

昭和53年から約15年をかけて保存処理した大修羅について、平成7年から定期的に各部の寸法変化および表面状態を現地調査してきた。令和5年度の調査結果においては、大修羅の状態が安定していることが確認された。

舞鶴引揚記念館（舞鶴市） 白樺日誌保存処理方法の検討

白樺日誌は、第2次世界大戦後のシベリア抑留中に、紙の代わりに白樺の皮を、インクの代わりに煙突の煤を用いて作成された日誌である。抑留中の日々の生活を織り込んだ和歌などが書き込まれており、世界記憶遺産に登録されている。これまでの長期間の展示により劣化が進行しており、保存処理を行う必要が生じている。類例のないし資料のため、現生材の白樺より採取した樹皮を用い、白樺日誌と同様の劣化を生じさせた疑似的な資料を作成した。令和6年度以降はこれらの試料用いて保存処理方法の検討を行っていく。

奈良市補助金事業

仏教民俗資料の収集調査 奈良市内所在石造文化財の調査（13）

奈良市内における石造物の悉皆調査は平成元年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これらの石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査が実施されたものは少ない。

令和5年度も引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行い、情報開示を行った。

調査・研究の成果については『元興寺文化財研究所研究報告』に掲載し、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学をはじめとする全国の文化財関連機関に配布している。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や纖維の赤外分光分析等を行う。

愛媛県埋蔵文化財センター 金銅五輪塔形舍利容器の分析

愛媛県西条市宮之内遺跡出土の12世紀後半から13世紀前半と考えられる総高2.5cmの五輪塔形舍利容器の分析を行った。蛍光X線分析及びX線CT撮影、顕微鏡観察の結果、素材は鍍金を施した銅であること、また、小型ながら複数のパーツからなる精巧な工作物であることが明らかとなった。

愛知県美術館が所蔵する木村貞三コレクションの一つである高麗時代鉄地金銀象嵌鏡架の分析を行った。美術館では鏡架の復元模造品を企図しており、その際の使用素材や技法の根拠となるデータを集めるため、蛍光X線分析、X線CT撮影を行った。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

如宝寺(福島県郡山市)	重要文化財「笠塔婆」の保存修復
四天王寺 (大阪市)	石棺蓋の保存修復
長谷寺 (福島県いわき市)	五輪塔種子の復元
大阪府河内長野市	引札の修復
浄土寺 (奈良県御所市)	絹本紺地金銀泥 青海曼荼羅の原寸大復元模写

如宝寺の石造「笠塔婆」は、令和3(2021)年2月13日に発生した震度6弱の地震により倒壊し、令和3～4年度にかけて保存修復を行った。如宝寺において、支持体を含め、「笠塔婆」本体の据え付け作業を行った。

四天王寺の石棺蓋の保存修復は、令和3年から継続して行っている事業である。石材強化・撥水処理を行った石棺蓋の部材を接着復元し、四天王寺での安置作業を行った。

長谷寺の五輪塔は、令和4～5年度で保存処理と欠失していた種子(梵字)の復元を行った。無指定であるが鎌倉時代の作と考えられ、火輪(笠部分)のおおよそ半分を欠失していた部分を復元し、その部分に刻まれていた種子を復元し、長谷寺での安置作業を行った。

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌法、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。

河内長野市の引札は、毎年、継続して行っている事業であり、クリーニング・欠失部分の繕い、裏打ちを行った。

浄土寺の絹本紺地金銀泥青海曼荼羅については、令和4～5年度に肉筆による仏画制作及び復元事業を行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

福井県立若狭歴史博物館(小浜市)	重要文化財福井県鳥浜貝塚出土品の保存修理
徳島県	重要文化財徳島県觀音寺・敷地遺跡出土品の保存修
理	
宮崎県えびの市	島内139号地下式横穴墓出土漆製品の保存処理
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	小桶尻遺跡出土木製品の保存処理
岩手県平泉町	町内遺跡出土遺物の保存処理
福島県三島町	荒屋敷遺跡出土品の保存処理

重要文化財の修理としては、昨年度に引き続き、徳島県觀音寺・敷地遺跡(飛鳥～平安)出土品の保存修理を行ったほか、福井県若狭町鳥浜貝塚(縄文時代前期)出土品の支持台を作製し

た。また、宮崎県えびの市島内 139 号地下式横穴墓(古墳時代)出土矢柄等の脆弱な漆膜、京都府の小樋尻遺跡出土木樋、岩手県平泉町町内遺跡(志羅山遺跡や無量光院跡など) (平安時代末期)出土木製品、福島県三島町荒屋敷遺跡出土木製品の保存処理を行った。

金属製品・土器担当

〈金属製品〉

宗像大社(福岡県宗像市)	国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品の保存修理
福岡県行橋市	重要文化財福岡県 稲童 ^{いなどう} 古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館(福山市)	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
愛媛県松山市	重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品の保存修理
京都府京丹後市	重要文化財丹後 ^{ゆぶねざか} 湯舟坂二号墳出土品保存修理

宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡(古墳時代から奈良時代)出土品の保存修理は、令和 3 年度からの第 3 期 4 年間事業の 3 年目となる令和 5 年度も引き続き作業を行った。

重要文化財の修理では、令和 3 年度から引き続いて福岡県稻童古墳群(古墳時代)出土品、広島県草戸千軒町遺跡(鎌倉時代から室町時代)出土品及び、愛媛県重要文化財愛媛県朝日谷二号墳(古墳時代)出土品などの保存修理を行った。

また令和 4 年度から、京都府丹後湯舟坂二号墳(古墳時代)出土遺物の保存修理等の事業を実施しており、令和 5 年度も継続して保存修理を行なった。

〈土器〉

茨城県常陸大宮市	重要文化財茨城県 ^{いばらきみさかした} 泉坂下遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財徳島県矢野遺跡出土品の保存修理
愛媛県松山市	重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品の保存修理
広島県立歴史博物館(福山市)	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
和歌山県	重要文化財和歌山県大日山 35 号墳出土品の保存修理

重要文化財の修理としては、茨城県・泉坂下遺跡(弥生時代中期)出土壺形土器、徳島県・矢野遺跡(縄文時代後期初頭)出土深鉢形土器、愛媛県・朝日谷二号墳(古墳時代)出土壺形土器、広島県・草戸千軒町遺跡(鎌倉時代から室町時代)出土土師質土器の保存修理を実施した。また、令和 4 ~ 6 年度にかけて保存修理を行っている和歌山県・大日山 35 号墳(古墳時代後期)出土の 3 分割焼成の家形埴輪と胡籠^{ころく}形埴輪は、2 年目の修理を行った。

ほかにも、奈良国立博物館所蔵・赤彩広口壺形土器(縄文時代)や京都国立博物館所蔵・杯(古墳時代)の保存修理を実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

令和 5 年秋季特別展『菅原遺跡と大僧正行基・長岡院』

開催期間 10 月 21 日(土) ~ 11 月 12 日(日)

開催場所 元興寺法輪館

※宗教法人元興寺と共に

令和 2(2020) 年度に受託事業として発掘調査を行った平城京の西方・奈良市疋田町で非常に特殊な古代の寺院関係遺跡が発見された。大規模な回廊、壠で取り囲まれた区画と、その中心

に推定 16 基の柱穴が円形に並ぶ類例のない建物の遺構である。

当初、この中心建物がどのような構造であったのか復元は非常に難しかったが、円形の多宝塔を想定する円堂建築の可能性を提示した。また、この遺跡の年代としては、出土した軒平瓦や土師器杯から 8 世紀半ばに位置づけられ、遺跡の時期や立地、性格を考えると行基の供養塔の可能性が考えられている。令和 3 ~ 4 年度にかけての菅原遺跡の整理作業を終え、令和 5 年 3 月末に同遺跡の発掘調査報告書を刊行した。

この機会に菅原遺跡の発掘調査の成果報告の場として秋季特別展で取り上げ、会期中に講演会も開催した。

文化講座の開催

実践文化財学 講座編

弘法大師空海生誕 1250 年記念講座「弘法大師信仰とその周辺」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所所員がわかりやすく報告を行った。

開催日

6 月 14 日 (水)	『元興寺影向間と弘法大師』高橋平明
7 月 12 日 (水)	『高野山奥の院・大名墓の世界』坂本 俊
9 月 13 日 (水)	『密教美術インパクト』植村拓哉
10 月 11 日 (水)	『寺社縁起のなかの弘法大師』向村九音
11 月 8 日 (水)	『ならまちの弘法大師信仰』服部光真
12 月 13 日 (水)	『真言密教忍辱山流の成立とその後—円成寺聖教を参考に—』 三宅徹誠

場所 総合文化財センター・ルーパ館 3 階

時間 13:40 ~ 15:10

参加人数 延べ 171 人 (全 6 回)

展覧会等の開催支援及び文化財活用事業

文化財企画活用担当

展示支援事業としては、「発掘された日本列島 2023」の展示支援事業と大阪大谷大学博物館の企画展示の展示支援事業を実施した。

各部門における保存処理、修復に伴う保存台・保存箱の作製を統括し、重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品、重要文化財丹後湯舟坂二号墳出土品、国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品や重要文化財福岡県稻童古墳群出土品、新宮市阿須賀神社所蔵懸仏等の保存台・保存箱の設計および作製をした。

三次元計測を利用した復元・複製品の作製の積極的な事業展開を進めており、令和 5 年度も、宮内庁正倉院事務所から委託を受け、正倉院宝物の三次元計測並びに保存台作製業務を行った。

遺跡・遺構の現地保存、取り上げ作業としては、昨年度に引き続き「一般国道 312 号線大宮峰山道路事業関係遺跡(幾坂古墳群)漆塗り革盾保護養生業務」((公財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター) の現地保存応急処置と、新たに「奈良県富雄丸山古墳出土木棺蓋の取り上げ」(奈良市)を行った。

『発掘された日本列島2023』展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務について、令和5年も継続して実施した。

令和5年度は3館で開催され、期間中の来館者数は延べ約30,000人であった。

本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、出陳物の点検・展示・撤収のほか関連資料の管理、開催予定各館との調整などを行った。

山梨県立考古博物館	(令和5年 9月16日～10月29日)	44日
対馬博物館	(令和5年11月11日～令和6年1月8日)	59日
平城宮いざない館	(令和6年 1月20日～ 2月11日)	23日

金属・土器、伝世資料担当

株式会社NHKエンタープライズ

生誕1250年記念特別展『空海 KŪKA I－密教のルーツとマンダラ世界』に関する作品修理
インドネシア国立中央博物館において、令和5年8月6日～12日に令和6年4月から奈良国立博物館において開催される『空海 KŪKA I－密教のルーツとマンダラ世界』に出陳される銅製金剛界曼荼羅彫像群（インドネシア・東部ジャワ期（10世紀））の点検および強化処置を行った。あわせて、現地博物館スタッフに対して、銅製彫像群の強化処置方法についての保存修復技術の指導を行った。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行った。

重要文化財弘法大師坐像と納入品の出陳

生誕1250年記念特別展『空海 KŪKA I－密教のルーツとマンダラ世界』

開催期間 令和6年4月13日～6月9日

開催場所 奈良国立博物館

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告2023』(1,300冊)の刊行

『平城京右京北辺三坊五・六坪(HJG18次)－令和4年度発掘調査報告書－』(奈良市)

『平城京左京五条五坊十一・十四坪(HJG14・17次)－令和2・4年度発掘調査報告書－』

(奈良市)

7. 体験活動

研究、調査成果を社会に還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、大学生や各種団体の博物館実習や職場体験、施設見学を受け入れた。施設見学については、感染症予防対策を徹底したうえで、業務に支障が無い範囲で日程を調整しながら

隨時受け入れた。

博物館実習の受け入れ

奈良大学（10名）、近畿大学（1名）、京都女子大学（5名）の計16名。

その他

京都府立大学（18名）、筑波大学（9名）、大阪大谷大学（25名）、大谷大学（30名）、関西大学（30名）、京都橘大学（52名）、京都芸術大学（14名）、奈良県立高円芸術高校美術科（33名）、奈良県立高円芸術高校デザイン科（31名）、新渡戸文化学園（10名）、奈良大学（33名）、奈良好き人の集い（10名）、10月31日にはJICAの研修を受け入れ（研修員9名の他5名で計14名）座学と研究所内の案内を行った。計13団体（353人）。

また、石造物研究会（50名）、全国埋蔵文化財法人近畿地区デジタル技術活用推進委員会会議（14名）、古代武器研究会（126名）、科学研究費報告会（57名）の、4団体の研究会を受け入れた。

文化講座終了後に、同講座参加者や一般個人向けの施設見学会を全6回開催した。（参加者は延べ66名）